

【なぜ防災対策か？】

- ・東日本大震災をきっかけに、国民の防災に対する意識が非常に高まっている。
私達が行った京田辺市民に対するアンケート結果からも、市民の防災に対する意識の高さが伺えた。
- ・平成 24 年度の市長による施政方針の中で、「安心・安全な暮らしの創造」を目標に掲げ、その中でも「防災」が非常に重要視されている。
以上のことから、防災対策はニーズの高い政策であると考えた。

【防災という観点における地域コミュニティの重要性】

- ・過去の震災の例から災害時に地域コミュニティが力を発揮するということがわかった。
- ・京田辺市の掲げる地域防災計画の中で、地域防災力の向上が今後の課題であるという旨の内容が述べられている。
- ・私達が行った京田辺市民に対するアンケート結果から、防災という観点において、地域コミュニティが大切であると認識している人が多いことがわかった。
以上のことから、防災対策として地域防災力の向上を目標とした。

【風化する防災意識】内閣府が行った調査から、災害直後は防災に対する意識が高まるが、年数が経つにつれてその意識も薄れていくということがわかった。

防災意識を向上させるだけでなく、さらにその意識を持続させることが重要である。

【なぜ自然資源を活用するのか？】

今までの調査から、防災対策は持続性が重要であるとわかった。

そこで、住民の関心の高い要素を政策に組み込むことで、さらに持続性のある政策になると考えた。

私達が行った京田辺市民に対するアンケート結果から、エコに対して高い関心を持っていることがわかった。

より持続性のある防災対策を打ち出すために、住民の関心の高い「エコ」という要素を組み込むことにした。その中で、私たちは京田辺市の自然資源に着目した。

【京田辺市の自然資源って？】

京田辺市の数ある特産品の中でも、私達は「竹」に注目した。

竹や筍が豊富であることはもちろん「二月堂への竹送り」や「竹取り物語」などに代表されるように文化としても定着しており市民にとって馴染み深いものだからである。

【竹を利用するメリット】

竹は放置しておくると他の植物の成長を阻害し、大雨や地震などで大規模な地滑りを起こす原因となり非常に危険である。竹を利用することで様々な問題の予防になる。

伐採竹は焼却処分されることが多いが、竹を利用することで資源の有効活用になる。
竹は持続的な再生産の可能な天然資源である。

京田辺市の特産品である竹を使用することで、多くのメリットが得られる。

【竹を利用した防災対策を行い、地域防災力を向上させる】

私たちは、以上の事を踏まえた上で、「竹を使ったキャンドルナイト」を提案した。

【イベントの流れ】

竹の伐採：町内会や、その地域のこども会の住民達が協力し合って竹の伐採を行う。

竹を使ってのキャンドルポット作り：伐採してきた竹を使って、キャンドルを入れる容器（キャンドルポット）を作る。

キャンドル作り：各家庭で出た廃天ぷら油や家庭で簡単に用意できる物を使って、キャンドルを作る。

キャンドルナイト：各町内会の避難場所で、キャンドルナイトを行う。

市による表彰：市職員や住民の投票を踏まえ、各町内会で作ったキャンドルナイトの内、優秀な作品を市に表彰していただく。

【この政策による効果】

防災面

- ・町内会規模で協力して取り組むことによって、地域コミュニティの活性化に繋がり、**地域防災力が向上する。**
- ・開催場所を各町内会の避難場所にするすることで、**避難場所の認知度を上げる。**
- ・キャンドルナイトを通して、災害時の停電に向けた備えの強化。
- ・竹を使用することで、**竹林整備に繋がり、災害の予防になる。**

エコ面

- ・伐採された竹を使用することで、資源の有効活用につながる。
- ・家庭で出た廃天ぷら油を使用することで、リサイクルになる。
- ・キャンドルナイトを通して、省エネや節電の意識向上につながる。

【行政の役割】

この政策において、行政の役割は二つだけである。

- ・広報：市が市外への広報を担うことで、市外からの来場者も期待でき、経済的な効果も見込め、新たな観光資源となりうる。
- ・表彰：優秀な作品を表彰することで、参加者全体のモチベーションの向上につながる。

【実現可能性】

- ・竹や廃天ぷら油を使うことで、経費がほとんどかからない。
 - ・住民主体のイベントなので、行政の負担が少ない。
 - ・こども会を巻き込むことで、両親や祖父母の参加も期待でき、高い参加率が見込める。
- 以上の事から、実現可能性は非常に高い政策であると考えられる。